

注意報第1号

各関係機関団体の長
各病害虫防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病害虫防除所長

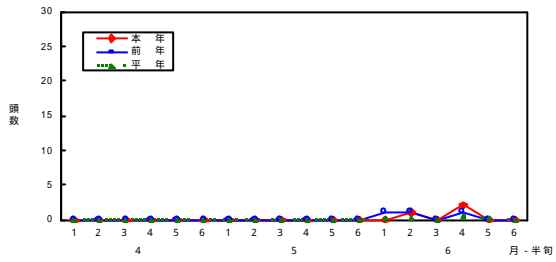
平成20年度病害虫発生予察注意報第1号について

このことについて、病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

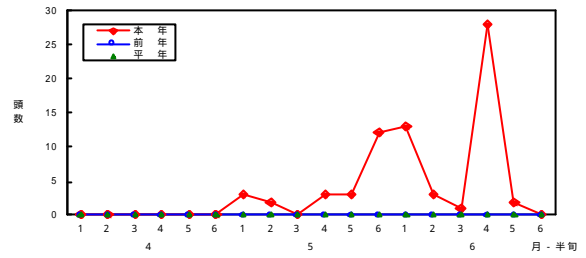
近年、早期水稲で斑点米カメムシによる被害が増えています。この原因の一つとして、ミナミアオカメムシの増加が考えられます。現地における発生状況の把握に努め、適切な防除指導をお願いします。

早期水稲

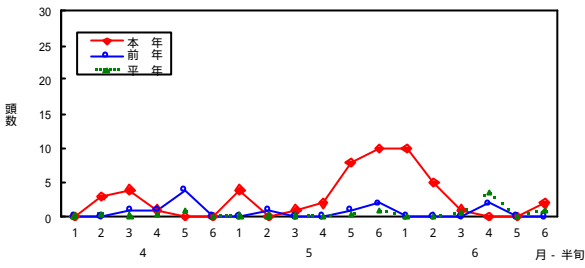
- 1 病害虫名：ミナミアオカメムシ
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生量：平年（過去4か年）及び前年より多い
- 4 注意報の根拠
 - (1) 予察灯では4月6日と早い時期から誘殺され、4月～6月の誘殺虫数（県内5か所の合計）は156頭（過去4か年平均15.6頭、前年40頭）と極めて多い(図参照)。
 - (2) 昨年10月2半旬の大豆25株当たりの発生量は、27.0頭(前4か年平均：1.2頭、前年：1.1頭)と極めて多く、厳寒期の平均気温が越冬可能な5（福岡市：1月7.5）以上で推移したので、越冬量は多かったと考えられる。
 - (3) 本年5月5半旬の小麦ほ場における見取り調査では、5割以上のほ場で発生が認められた。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 出穂直前の除草は本田内に本種を追い込むことになるので、出穂2週間前までに畦畔や休耕田などの雑草管理を徹底する。
 - (2) 防除適期は穂揃期及びその7～10日後である。
 - (3) 出穂の早いほ場では集中的に加害される恐れがあるため、発生状況に特に注意する。
 - (4) 農薬使用の際は使用基準を守るとともに、近隣ほ場への飛散防止対策を講じる。



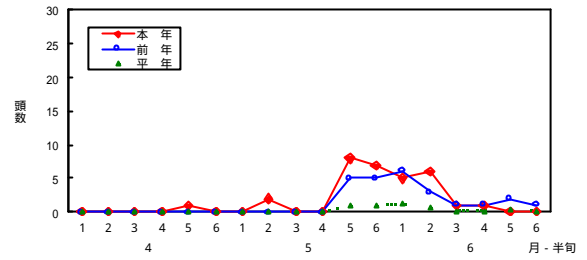
筑紫野市



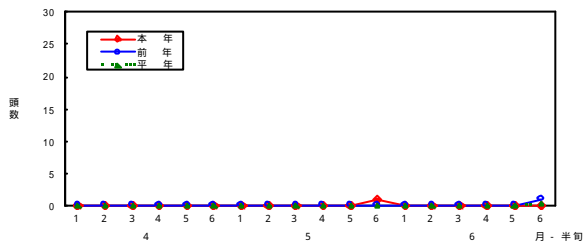
二丈町



筑後市



行橋市



遠賀町

図 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数の推移



写真1 ミナミアオカメムシ成虫

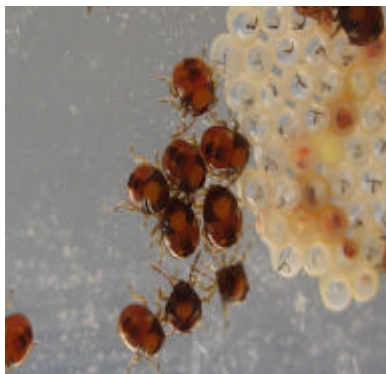


写真2 ミナミアオカメムシの孵化幼虫



写真3 ミナミアオカメムシの老齢幼虫